

令和5年度
第37回 少年の主張甘楽町大会

発表文集



甘楽町教育委員会

目次

(敬称略)

ページ

◆最優秀賞

・ 今を楽しめる二つの言葉	甘楽町立甘楽中学校二年	土筆心愛	1
・ あの日私を変えてくれた友人へ	甘楽町立甘楽中学校三年	大澤晴空	3
・ 守り伝える	甘楽町立甘楽中学校三年	森田望花	5

◆優秀賞

・ 「かわいそう」じゃない	甘楽町立甘楽中学校一年	清水空麗	7
・ 返す言葉	甘楽町立甘楽中学校一年	清水海美	9
・ 自分で決めた部活だから	甘楽町立甘楽中学校一年	中島千菜乃	11
・ いじりといじめの境界線	甘楽町立甘楽中学校二年	黒澤友稀	13
・ Verbal expression	甘楽町立甘楽中学校二年	荒木阜佑	16
・ 「できる人」とは	甘楽町立甘楽中学校二年	茂原衣颯	18
・ 戦争	甘楽町立甘楽中学校三年	大類龍聖	20

*原文のまま、各賞ごと学年順に掲載しています

今を楽しめる二つの言葉

甘楽町立甘楽中学校

二年 土筆 心愛

皆さん、皆さんが今を楽しむために心がけていることはありますか？私があります。私が心がけているのは、「伝える」ということです。伝えると言っても何を伝えるのだろうか、そう思った方もいるのではないのでしょうか。私は、今から紹介する二つの言葉を伝えることが大切だと思っています。

まず一つ目は、「ありがとう」です。皆さんも日常会話で使うことが多いのではないのでしょうか。「ありがとう」という言葉には、感謝の意味が含まれていて、言った側も、言われた側もうれしくなるから、ありがとうはしっかり伝えなさい。」と親や先生に教わった方も多いと思います。それは私も同意見ですが、なぜこんな、毎回少しのことでありがとうと伝えなければ

いけないのだろうか。と疑問に思うところがあったので、自分なりに考えてみました。すると、ある一つの記憶がよみがえりました。私が小学生の頃のことです。道に迷っているおばあちゃんがいました。私は、このあたりの道なら大体わかるし、道を教えてあげようと思いい、おばあちゃんに話しかけ、道を教えてあげました。すると、おばあちゃんは私に「ありがとう」と言ってくれました。中には、「道を教えたんだから当たり前でしょ。」と思う人もいるかもしれませんが、その時の私は、「道を教えたただけなのにありがとうって言ってくれた！」と、とってもうれしくなりました。それから、「これからも困っている人がいたら積極的に助けたい！」という感情が自然にあふれだしてきました。このように、何気ないありがとうの一言から、「これからも続けたい。」と思えたことで、私は毎回毎回、たとえほんの少しの出来事でも「ありがとう」と言っていくことにしました。そうすれば、「このこととはいいことなんだ。」と思ってくれる方が増え、助け合ったり、喜びあったりできる方もどんどん増えて

いくと思います。すると、この世界にたくさん笑顔が咲いてくるのではないのでしょうか。ですが、「ありがとう」だけでは今を完全に楽しめているとは思いません。

もう一つ大切だと思う言葉は、「嫌」です。「嫌」と聞くと、少しイメージが悪いかもしれませんが、これが、この「嫌」という言葉はとても大切なんです。皆さんも、「あ、これいやだな。」や「やめてほしいな。」と思ったりすることなどありませんか？でもその時、「嫌って言ったなら、仲悪くなっちゃうかもしれない。」と思うって、「嫌だ」と言えなかったりしませんか？前までは私も、「仲悪くなりたくないし、嫌って言わないでおこう。」と思う時もありました。ですが、嫌なことをしてくる子が百パーセント悪気があるとは限らない。今、私が嫌だと言えば、その子も直して、これから人を傷つけることもなくなるかもしれない。と考えれば、もし仲が悪くなったとしても、伝える価値は十分にあると思います。それに、嫌なのに言えなくて、自分の中でため込んで、後に、自ら命を絶ってし

まおうなどと考えてしまうのは、あなたの人生が台無しになってしまいます。これからの人生をより良く、より楽しめるようにするためには、嫌なことは「嫌」と伝え、今を明るく楽しくした方がとっても良いのではないのでしょうか。

このように、「ありがとう」という笑顔の種と、「嫌」という自分を守るこの二つの言葉を大切にすると、私たちの世界は、明るく、今を楽しめる最高の世界になっていくと思います。皆さんも、この二つの言葉を大切にしていって、今を明るく、楽しくしていきませんか。

あの日私を変えてくれた友人へ

甘楽町立甘楽中学校

三年 大澤 晴空

「あまり本性を出さないよね。」私は友人にこう言われたことがあります。皆さんは友達に自分の気持ちをしっかりと伝えていきますか。私はもともと人との付き合い方があまり上手な方ではありません。人と話す時、相手に合わせて本当の自分を隠してしまうことがあります。意見を言わないから、相手には都合の良い人だと思われることが多いかも知れません。しかし実際は、相手を恐れているだけの弱虫に過ぎないのです。私には親友だと思っていた友達がいました。その子とはいつも一緒に、私のことを良く分かってくれていると思ひ込んでいました。しかし小学五年生の頃のこと。総合的な学習の時間に調べ学習を行うことになった私は、四人班の班長になりました。仲の良い友達とも同じ班になることができ、これからの活動に胸が高鳴っていました。そんなある日、班の中で意見の食い

違いが起こったのです。友達同士が言い争っている中、班長である私は間に入ってお互いの意見を聞くこともできず、そばで突っ立っていました。そんな私に友人はこう言ったのです。「班長としての意見はないの、あまり本性を出さないよね。」と。そう言われ私は返す言葉が見つかりませんでした。そんな私に呆れたのか、友人はため息をついて学校を後にしてしまいました。どうして友人をあそこまで怒らせてしまったのだろうかかと、自分の情けなさに嫌気がさした瞬間でした。次の日、私は何と声を掛けて良いのか分からずに、モヤモヤしたまま学校に行きました。先に着いていた友人から声をかけられ「前から思っていたけど、思っていることを口にしてくれないとちゃんと相手に伝わらないよ。」と言われました。やはり私はすっかり友人に向き合っていなかったんだと気付き、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。しかし、その言葉で今まで自分を守るために存在していた何かが私の心の中から消えていき、自分の気持ちを素直に伝えてもいいんだと心が解放された気がしました。私はそれまで、

本気で相手とぶつかったことがなかったのです。友達に嫌われたらどうしようという恐怖心から逃れるために自分の気持ちを隠していた。自分はなんてずるく、弱い人間なんだと思い知り、そんな自分を変えたいと思いました。その日をきっかけに、私は少しずつ自分の意見や気持ちを友達に伝えてみることにしました。初めはとても怖かったし勇気がいるものだったけれど、話しているうちに知らなかった自分の素顔や気持ちを知り、「本当の友達との向き合い方」というものを知った気がしました。そして友人に伝えたかった謝罪の言葉や自分の気持ちを言ってみると、友人は少し安心したような表情をして「ちゃんと言ってくれてありがとう。」と優しく微笑みかけてくれました。その笑顔を見て私は、これが正解だったんだなとほっとすると同時に、自分のことが少し好きになれたような気がしました。

この経験を生かして私は、児童会本部役員や学級委員を務めました。自分の気持ちを素直に言葉にして伝えることの大切さを知ってから、クラスや学校全体を

より良くしようと積極性を持って取り組むことができないようになりました。あの日の経験が、私を大きく変えたのです。私を導いてくれた友人には感謝しかありません。

人と会話をする上で私が学んだことは、自分の気持ちをはっきりと相手に伝えるということです。相手も人間であるため、会話なしで相手の心情を読み取ることはできません。しかし、これはとても勇気がいることで、決して簡単なことではありません。昔の私のように、相手を気にして自分の気持ちを伝えることができずにいる人もいると思います。でも勇気を振り絞ることで、その先に待っているものは、今自分が想像しているよりも明るい未来です。今は苦しいかもしれないけれど大丈夫。きっと相手はあなたをわかってくれるよ。そう言って今度は私が友人が教えてくれたように誰かの背中を押してあげられる存在になりたいです。

守り伝える

甘楽町立甘楽中学校

三年 森田 望花

「この辺りは、桑畑がたくさんあったんだよ。今は変わっちゃったけどねえ。でも、桜並木だけはおじいちゃんが子供の頃から今も変わらないんだよ。」ああ、また始まったよ。この話。私は、祖父が甘楽町の昔の風景や街並みについて話をするに、面倒くさいな、また同じ話を聞かされているよ。と書いていました。

私が住むここ甘楽町は、緑に囲まれた自然豊かな町です。歴史を感じられる建造物も多く残され、町の人々が受け継ぎ、守ってきた伝統文化があります。春には桜があちこちで咲き誇りお祭り賑わい、初夏には蛍が清流を飛び交い、秋には紅葉山の紅葉や大名庭園楽山園でのお月見、冬には雄川堰に流れる水が一層澄み渡り、展望台からは雪化粧をした上毛三山を望むことができます。

私はこの甘楽町が大好きです。そんな思いがより一

層強くなったのは、ある人の話を聞いたことがきっかけです。家族で沖縄旅行に行った時のことでした。マリンショップの店員さんが、こんな話をしてくださいました。「再建中の首里城もおすすめですよ。私は全焼してしまった首里城を見に行くことができなかったんです。ショックが大きくて。でも、ようやく先日見に行ってきたんです。そしたら、やっぱり首里城は私たちの誇りだって感じました。この島には、たくさんの宝物がありますよ。私は本当にこの島を愛しています。」と。今までに私が聞いたことのある沖縄の歌とまるで同じで、これほど郷土への思いを抱いている人が実際にいるのだと驚き、感銘を受けました。郷土の自然環境や歴史に誇りをもち、それを「宝物」と言う姿は凜としてかっこよく、私も自分が過ごしてきた甘楽町を大切に思い続けられる人でありたいと思いました。

今年の四月、町の春を彩る最大のイベント、城下町小幡さくらまつりが開催されました。コロナ禍を経て四年ぶりに開催されたさくらまつりは、これまでのに

ぎやかな町が戻ったようで、本当にうれしくなりました。ひらひらと桜が舞う中、甲冑に身を固めた戦国武将たちが勇ましく歩く武者行列に拍手と歓声が上がりました。待ちに待ったとばかりに、大勢の観光客と町の人々が桜並木に溢れていました。私も小学生の時は薙刀隊として参加したことがあります。今年、妹が同じように参加する姿を見て、父がふと口にしました。

「昔自分が出たお祭りに自分の子供が参加するなんて想像もしてなかったなあ。」私はその言葉にはっとしました。郷土の文化や伝統が受け継がれていくことは誰もがうれしいと思うことなのだ。そして、祖父がいつもあの話をするのは、昔から変わらないこの桜並木を大切にしてほしいという思いがあるからなのだ。と気づきました。ずっとずっと住んでいる、この町を守りたいのです。「この景観は特別なものなんだ。歴史あるこの町は宝物、誇りなのだ。」と改めて実感しました。そして、自分にも誇れる郷土があることに感謝したいと思いました。私の大好きなこの甘楽町は、多くの人々が町の文化や景観を大切に、受け継いで

きたのです。

私たちには使命があります。それは、郷土の伝統や景観を未来へと伝えていくことです。日々目まぐるしく変化する現代だからこそ、昔から変わらない、変えてはならないものがあるはず。いつまでも、私たちがこの町を誇りに思い続けるために、町を自らの手で守り、伝えていくことが大切なのではないでしょうか。みなさんは、この町のどんなところが好きですか。ぜひ考えてみてください。きっと大切にすべきものが見えてくるはずだから。

「かわいいそう」じゃない

甘楽町立甘楽中学校

一年 清水 空麗

「かわいいそう。」これは、私がヘアドネーションで作られたウィックを使う方に対して初めて思ったことです。

みなさん、ヘアドネーションという活動を知っていますか？ヘアドネーションとは、小児がんや白血病などの病気、先天性の脱毛症、不慮の事故で髪の毛を失った子供たちに対し、医療用ウィックを無償で提供する活動のことです。提供をする側をドナー、ウィックを受け取る側をレシピエントと呼びます。

私は、ドナーとしてヘアドネーションに関わりました。その時私は、「かわいいそう。私の髪が役に立てばいいな。」と思っていました。しかし、その考えは少し違うことに気づきました。そのきっかけは、ヘアドネーションに関わる本を読んだことです。その本は、日本で初めてヘアドネーションを始めたジャパンヘ

アドネーションアンドチャリティーが作った本で、レシピエントとドナー、それぞれの立場の方々の声がインタビュー形式で書かれていました。私はその本の中の、様々な視点や人それぞれの強い思いに深く感動しました。感動すると同時に、自分が恥ずかしくなりました。レシピエントの方たちの気持ちをきちんと考えずに、私は、かわいいそうな人に対し、何かしてあげることでも満足していたことに気づいたからです。そんな自分を深く反省しました。

先ほど言った通り、私はドナーとしてヘアドネーションに関わりましたが、小学校低学年のころ、自分の髪の毛を抜いていた時期がありました。当時は、軽い気持ちで始め、気が付いたらやめていましたが、振り返ってみると、それが進んで「脱毛症」という病気になっていたかもしれない。そうなれば、ドナーではなくレシピエントとしてヘアドネーションに関わっていたかもしれない、と両者のことを考えるきっかけにもなりました。

ヘアドネーションで髪の毛を寄付するためには、最

低三センチメートルの髪の毛が必要です。三センチメートル髪の毛を伸ばすには、二、三年ほどかかります。長くなればなるほど、手入れが大変になり、夏はとても暑いです。でも、三センチメートルの髪の毛では、ウィッグにしたとき、ショートほどの長さにしかありません。セミロング以上にするには、もっと長い髪の毛が必要です。私は、二年前にヘアドネーションをしたとき、「ヘアドネーションはもうやらなくていいや。」と書いていましたが、本を読んだ今は、「もう一度ヘアドネーションをしたい。」と思うようになりました。だから、今私は髪を伸ばしています。また、今の気持ちは、「かわいそうだから」という理由からではなく、レシピエントの立場に立って考えたとき、ウィッグをつけることもつけないことも選択できる自由な社会になってほしいとの思いからです。

今問題になっている「ルッキズム」（外見至上主義）も同じ問題をもっており、偏見を加速させるという意味で、同じ社会問題だと考えられます。

私は、このような問題を受けて、差別や偏見のない

自由な社会を、私たちの力でつくっていききたいと思っています。

「このヘアドネーションが、社会を変えるきっかけになればいいな。」この思いが、今のヘアドネーションをする理由です。私は、差別や偏見のない自由な社会をつくりあげるために、これからも努力していきたいです。

返す言葉

甘楽町立甘楽中学校

一年 清水 海美

「おはようございます！」みなさんは、道ですれ違った近所の人などにそう言われて、「おはようございます。」と返したり、または自分から挨拶したりできていますか？私は、生活の中にある「あいさつ」についてお話しします。

今の私は、道ですれ違った人にあいさつをされても元気よく「おはようございます！」と返せますし、自分からあいさつすることが多いです。ですが、小学校五年生のころまで私は、あいさつすることに興味がなく、何も感じていませんでした。あいさつをされたら普通に返す。自分からあいさつをしたり、元気よくあいさつをするなんて、考えたこともありませんでした。そのまま月日は経ち、私は小学校最高学年の六年生になりました。そこで私は、「いろいろなことにチャレンジする」と決めました。そこ

で、前から入りたいと思っていたけれど、勇気が出なくて入ることのできなかった児童会という委員会に入りました。私が、あいさつに興味を持ち、あいさつに対する意識が変わったのは、そこからです。児童会とは、児童の代表として、学校をより良くするための委員会です。主な活動には、集会の司会、ペットボトルキャップの収集など、学校をより良くしていくために、自分たちで考えた活動をすることもありました。様々な活動がある中で、私を変えてくれた活動は、「あいさつ運動」という活動です。それは、毎朝児童玄関前に並び、来た人にあいさつをしたり、クラスに行ってじゃんけんやクイズなどをしたりするということです。早く学校に行って準備しなければいけないため、友達とおしゃべりをしたりすることはできませんでした。

毎日あいさつ運動をする中で、どうしたらみんながもっと良いあいさつをしてくれるようになるかを考えました。「目を見てあいさつ」「笑顔であいさつ」などのポイントを書いた紙を持ってあいさつし

たり、元気にあいさつをしてくれた人の数をカウンターで数えて伝えたりしました。ですが、私がお手本になるように丁寧に一生涯命あいさつをしても、無視をする人、目も合わせずお辞儀だけする人、「おはようございます・・・」と暗く小さな声であいさつする人が多くいました。そのようにあいさつを返されたり、無視されたりすると、悲しく、嫌な気持ちになりました。でも私は、あいさつ運動を「やりたくない。嫌だ!」と思ったことはありませんでした。なぜかというところ、元気に明るく挨拶を返してくれる人がいたからです。「おはようございます!」と、元気よく返されるあいさつに元気をもらいました。さらに、最初は無視していた人が、お辞儀してくれたり、小さな声ですが、あいさつを返してくれるようになったりしました。このような変化を感じ私は、「今まで一生涯命に工夫してやってきたことは無駄じゃなかった。これからも頑張ろう!」と、とてもうれしくなりました。このような経験から、あいさつをする人、される人の気持ち

わかるようになり、私は、あいさつの大切に気づくことができました。

私にとって「あいさつ」とは、「あたりまえ」です。だからこそ、何となく「・・・」ではなく、「おはようございます!」と心を込めて言っほしいです。あいさつ一つでお互いがその日一日よりよく過ごせると、あいさつ運動を通して、学ぶことができました。

私は、これからもいろいろな場面で、いろいろなあいさつを心を込めて丁寧にしていきたいです。皆さんも、心を込めてあいさつしてください。

自分で決めた部活だから

甘楽町立甘楽中学校

一年 中島 千菜乃

皆さんは何の部活に入っていますか？どうしてその部活に決めたのですか？

小学生のころ私は、「中学校では部活に入らなくてもいいかな」と思っていました。運動は大の苦手なので、運動部は最初から入るつもりはなく、また、小学生のころはそこまで自分が打ち込みたいと思う部活が思いつかなかったからです。部活はつらくないもので、家に早く帰ってこられるものがあるといいな、と何となく考えていました。

小学生のころ、友達と中学校の話になると、「何部に入る？」「私はテニス部だよ」「剣道部にするか吹奏楽部にするか悩んでる」「あの部活も楽しそうだよ」「友達と同じ部活に入ろうかな」などと決まって部活の話が出てきました。中学校Ⅱ部活と言っても良いくらい、友達はみんな部活を楽しみにしているように

した。私も何部に入るか聞かれると「美術部にしようかな？」など、絵を描くことは嫌いではなかったのですが、みんなに合わせて何となく答えていました。しかし、部活が楽しみという思いはあまり芽生えませんでした。私には大学生と高校生の年の離れた姉がいます。姉二人は中学生時代は卓球部に所属し、目標をもって部活に取り組んでいたようです。コロナ禍前だったので、休みの日には練習試合があり両親はほぼ毎週送迎をしていました。私が「運動部には入らない。もしかしたら部活にも入らないかも」と言うと、両親は「部活の送迎がないのは楽だね」と言っていました。しかし、内心は「そんなに冷めていて大丈夫？やる気が全然感じられないけど、中学校生活はこのままで大丈夫なんだろうか？」などと心配していたと、後から聞きました。「中学生の今しかできないことを経験し、頑張っしてほしい」と両親は思っていたようです。しかし、小学生の時は直接それを両親の口から言われたことはなかったのですが、気持ちも変わらないまま中学校に入りました。

中学校に入学し、部活動体験ではいくつかの部活を見る事ができました。そして、吹奏楽部に体験に行きました。そこで私は、運命的な出会いをしました。それは、サクスフォンとの出会いです。体験の中で初めて聴いたサクスフォンの心地よい音色に一瞬でとりこになりました。「私もその音色を奏でてみたい」と思いました。「絶対にサクスフォンを吹きたい」「もうこの楽器しかない」と私はその時強く思いました。しかし、それと同時に本当に続けられるのか、私に出来るのだろうかと不安も芽生えました。家に帰り母に「吹奏楽部に入部してサクスフォを吹きたいけど、三年間続けられるかわからない」と話すと、「やっとやりたものが見つかったんだね。その部活が楽しくてやりたい楽器も決まっているならその部活が良いと思う。楽しいと思えるなら絶対に続けられると思うよ」と言ってくれました。この言葉で私の気持ちは少し軽くなりました。

そして私は吹奏楽部に入りました。もちろん私の楽器はサクスフォンです。

私の仲の良い友達みんなそれぞれ様々な部活に入りました。陸上部に入った友達は、「高跳びで自己新記録が出せたよ」と嬉しそうに報告してくれたり、バレーボール部に入った友達は「バレーボール、楽しいよ」と笑顔で話してくれたりします。そんな時私も「サクスフォン吹けるようになってきてうれしい」とみんな近況を報告し合い、盛り上がっています。

やはり自分で選んで決めた部活だからこそみんな全力で頑張れるのだと思います。私の中学校生活、吹奏楽部の活動は始まったばかりです。きっと楽しいことばかりではなく、苦しいこともつらいこともたくさんあると思います。しかし、どんな時でも初心を忘れず、友達と励まし合いながら、三年間頑張っていきたいです。なぜなら、自分で決めた部活だから。

いじりといじめの境界線

甘楽町立甘楽中学校

二年 黒澤 友稀

皆さんの周りに、いじられキャラの人はいますか？
その人の周りでは、何時も、笑いが起きていますか？
そして、いじられているその人は、本当に、心から笑っていますか？

これまでの学校生活の中で、私は、いじめを見たことがありません。しかし、いじりはよく見るし、私もたまに、いじられます。

でも、その中には、私は「嫌だなあ」と感じるいじりがあります。そんな時、みんなと一緒に笑っていても、心の中では、笑っていません。

こんな風に話すと、私がいじめられているのでは、と思う人もいるかもしれません。けれど、私をいじってくる友人は、私をいじめているとは思ってもしないと思うし、私も、いじめられているとは思いません。

では、笑えるいじりと、笑えないいじり。その違いは、なんだと思いますか？

考えてみると、私は一対一の時にいじられて、不快に思ったことがありません。それどころか、お互いにいじりあって楽しく会話をしています。しかし、大勢の中でいじられると、たまに嫌な気持ちになります。

一体、少人数の時と、グループでいる時で、何が違うのか。私の性格や、友人の人間性が、ガラリと変わる。そんなことがあるのでしょうか？もちろん、そんなことはありません。

ところで、皆さんは、「表裏のない人」と「二面性がある人」という言葉を聞いて、どんな印象を受けますか？

おそらく、「表裏のない人」は、素直で明るく、良い人。「二面性のある人」は、一見いい人そうなのに、実は意地悪で、悪い人。そんなイメージだと思います。私は、表裏のない人でも、極端に二面性のある人も、あまりいないと思っています。

人間は、表と裏のある、円のようなものではなく、どこから見ても表の、球体のような存在だと考えるからです。

二人きりで話すとき、私たちは勝手に、お互いにとって一番良い面を見せあっているのではないでしょうか。つまり、お互いの言葉や、行動に気を付けて、思いやりのあるコミュニケーションがとれているのです。

それに対して、大勢にいるときは、すべての人に良い面を見せるのが難しく、思いやりがなくなってしまうのかもしれませんが。だから、「やめて」と言われても、本気だと思わず、いじり続けてしまったり、「嫌だ」と言えずに、我慢してしまったりするので。

皆さんは、いじりといじめの違いは何だと思えますか？私は、みんなが笑えるのがいじりで、笑えない人がいるなら、それはいじめだと思っていました。

でも、笑っている人の中に、心の中では笑っていない人がいたら、どうでしょうか。

人の心を見ることができないのと同じように、いじ

りといじめの境界線も、目には見えません。だから、皆さんにお願いがあります。

誰かをいじって、笑いが起きるとき、本当にみんなが心から笑っているのか、相手の立場に立って、よく考えてみてください。

そしてもし、少しでも「やりすぎかな？」、「いじめかな？」と感じたなら、それを止める勇気を持ってほしいです。

いじめの加害者はきつと、悪い人ではありません。あなたが面白いと思ったそのいじりが、誰かを傷つけて、いつの間にか自分自身が加害者になっているかもしれないのです。

いじりは、いじめかもしれない。

皆がその意識を持っていれば、いじめをなくすことが、きっとできると思います。

私はこれからも、自分の言葉で傷つく人がいないように、周囲としっかりコミュニケーションを取っていきたくと思っています。そして、「いじめかもしれない」と感じたなら、たとえみんなが笑っていても、止

めることができる、勇気がある人になりたいです。

Verbal expression

甘楽町立甘楽中学校

二年 荒木 皐佑

皆さんは「Verbal expression」という言葉の意味を知っていますか。これは英語で「言葉の表現」という意味です。皆さんは言葉の表現に関してどのような考えていますか。大抵の人が、「相手と意思疎通をするための道具」であると考えている人が多いのではないのでしょうか。僕もその一人です。しかし、最近僕はその言葉の使い方に対して、単なるコミュニケーションの道具だけではないのではないかと考えています。僕が言葉の使い方とは、表現するとは何なのか、と深く考えるようになったきっかけは、自分の考えを相手に中々伝えられないと自覚出来るようになってきたからです。しかも、僕は日本語の使い方がとても難しいと感じることもあります。日本語は抽象的であった

り、曖昧であったり、同じ言葉でも色々な言い方があるからです。その使い方の意味が異なり相手の受け取り方も違ってきます。これに対し英語は、結果を最初に言うため、言いたい事や相手の言っている事が分かり易いと感じています。

表現が分かり易いと言う事は、相手にも伝わり易いという事です。僕は家族にいつも、「主語が足りないよ。」「それでどうしたの?」と、言われてしまいました。言いたい事が頭には浮かびますが、それをどのように言葉にして表現すればいいのか、とても悩み考えてしまいます。そのため、僕は文章の組み立てがグチャグチャになり、相手に自分の意志が伝わりにくくなります。

さて、皆さんの中には僕とは違い「自分は言葉をきちんと扱っている」と思っている人もいるでしょう。しかし、そのような人達は、おしゃべりが得意と感じているのではないかと思えます。おしゃべりが得意なことは自分の意志をきちんと伝える事は必ずしも一緒とは言えないのではないのでしょうか。なぜならば、社

会に出た時に、会議や仕事の重要な内容に関しての話
を簡潔に伝える力が必要となるからです。

言葉の表現は薬に似ていると思いませんか。それは、
表現方法を間違わなければ人々を癒したり、適切な人
間関係を築く「薬」に、間違えると人々を傷つける「
毒」に変わります。僕は相手の意見に対し、肯定して
から提案する言い方が良いと頭ではわかっていま
す。しかし、実際は言われた事に対し、「違う。」と
即座に直接的な言葉を使ってしまったり、言葉の表現
を間違ったりして、嫌な思いをさせてしまう事があり
ます。皆さんも良かれと思った表現が、相手には良く
感じなかったりした経験はありませんか？言葉が相手を
傷つける「毒」の表現になり、相手とのすれ違いや勘
違いが生まれる事も多々あると思います。その時に起
きた場面を思い返して、何が原因だったのか考えてみ
ましょう。恐らく、自分の言いたいことが言葉で表現
出来ていなかった人がほとんどでしょう。薬のように
使用方法を一步間違えると大変な事になってしまいま
す。一生の友達を失うかもしれないし、反対に適切に表

現することができれば、自分と同じ価値観を持ち一生
の友達となる人もいるはずです。

だから、言葉を使って表現することは相手と意思疎
通をするためだけではなく、相手と分かりあって、よ
り良い関係を築くための「手段」にもなると考えます。
言葉の表現に関してそれぞれ思いや意見、考え方があ
ると思いますが、少なくとも相手と意思疎通で表現す
るためだけの「道具」でないことは確かだと思います。
僕はこのように薬と毒の側面がある言葉をうまく表現
してより良い人間関係を築いていきたいです。

「できる人」とは

甘楽町立甘楽中学校

二年 茂原 衣颯

みなさんは、「できる人」とはどんな人だと思いませんか。

「部活動は何のためにある？」と部活の顧問の先生に聞かれました。僕は考えたことがなかったので分かりませんでした。先生は、「部活はできる人になるためにある」と言いました。できる人とはどんな人なのか、僕は考えることにしました。

僕は、サッカー部に所属しているので、サッカーがうまくできる人や試合に勝てる人ができる人なのではないかと思いました。しかし、プレーが上手い人ができる人ではないと言われました。

できる人になるために僕がサッカーから学べるものは何か？まず思いつくのが、あいさつや礼儀です。ボールをとってもらったらありがとうございます。対戦相手には戦ってくれてありがとうございますという気

持ちを込めて。審判がいないと試合は成り立ちません。審判には、笛を吹いてくれてありがとうございます。という気持ちを込めて。

サッカーというスポーツは、すべての人にリスペクト、尊敬するという気持ちを持っています。

サッカーは、パスを出すときに、もらう人がもらいやすいパスを出します。ボールのスピードや強さや出す場所を考えて、気持ちを込めて出すようにしています。味方や相手がどういう状態にいるか確認するためコート全体を広い視野で見なければなりません。こういうことから、相手の気持ちを考えたり、周囲をよくたりする見る力がつくと思います。

準備が遅れて先生に注意されたことがあります。これはできる人ではありません。なぜ準備が遅くなったのか、それは、みんなに声掛けをしなかったからです。周りを見て、率先して声を出し、動けば良かったのです。

練習試合で対戦した相手の先生に、「甘楽中はまた対戦したいチームだ」と言われました。気持ちのいい

チームだと、本気で挑めば相手も本気になる。そんな試合は勝っても負けても収穫がある。お互い成長できるからまた対戦したいと思ってもらえるのです。

そして、僕はサッカー部の仲間が大好きです。サッカーは、ゴールを決めるのは一人だけけど、一つ一つのパスをつなぐことで、その先にゴールが生まれます。俺が俺がと言って自分勝手に一人でゴールを狙っても、ゴールはできません。時には自分が犠牲になって相手を引き付けてゴールを生み出したりしています。仲間の成功と一緒に喜べる、そんな仲間です。

できる人とは、サッカーが上手な人でも成績が良い人でもなく、相手を思いやることができる人、頑張れる人なのではないでしょうか。それは、一緒にいて居心地のいい人であり、いい所に喜んだり悲しんだりしたいと思ってももらえたりする人だと思います。

みなさんも何かを頑張っている人だと思います。

礼儀正しく、広い視野を持ち仲間のことを考えられるようになれば、できる人に近づけるはずです。できる人になるために、頑張っていきたいです。

戦争

甘楽町立甘楽中学校

三年 大類 龍聖

皆さんは戦争について考えたことはありますか。今から約七十年前は、かつては日本も戦争をしていました。けれど、なぜそのような決断をしなければならなかったのか僕は考えました。

僕はもともと戦争にあまり興味がありませんでした。しかし、授業で歴史を勉強していくうちに、戦争に興味を持ちました。興味を持つというのは、銃がカッコいいからとか、戦闘機に乗ってみたいからとか、そういう意味ではなく、当時の人たちの生活をしることや勉強することが好きになったからです。

まず戦争をするデメリットは大体予想できますよね。例えば、多くの命が奪われてしまったり、生き残っても大けがや精神的な傷を心に負ってしまったりということが挙げられます。では、戦争をするメリットとは何でしょうか。それは、敗戦国からたくさんのお金が

もらえたり、植民地が独立したりできることです。さすがに昔の人も人を殺すためだけに戦争をしていたわけではないようです。けれど、メリットに目を奪われすぎて、大切なものを忘れていたようです。命です。

これはお金で買えるようなものではありません。つまり、賠償金をいくらもらおうと失ってしまった命は買うことができないのです。こんなことが七十年前では当たり前前に起きていたことが信じられませんでした。

けれど、僕が小学生のころ、戦争が身近にあったことを知らされました。僕はある日、祖母の家に行ったとき、仏壇が置いてある部屋に写真が飾られているのを見ました。そこで祖母に「この人たち誰？」と聞きました。祖母は「この人たちはね、うちのご先祖様たちだよ」と言いました。へーと横に並べられた写真を見ていくと小学一年生ぐらいの男の子の写真が目に入りました。そして、「この子はどうしたの？」と聞くと「この子はね、6歳ぐらいだっけな、こんな若いけど戦争で死んじゃったんだよ」といわれ僕は衝撃を受けました。なんでこの子が死ななくてはならなかったの

か、どうしてまだ生きていたはずの人が過去の人になってしまったのか、僕は悲しい気持ちでいっぱいでした。戦争なんてしなかったら、罪のない人たちの命はまだ動き続けていたのに。生きていたら遊んだり、どこかへ出かけたたり、なんだったってできたのに。なぜこうなってしまったのか、僕は悔しくて仕方がなかったです。そこで僕らでできることは何かないのかと考えました。僕が出した答えは、本来生きているはずだった人たちの分まで僕たちが生きることです。そして、僕たちが精一杯生きる中で、戦争の恐ろしさを知り、後世へ伝え、二度と繰り返さないよう努力することです。

先月行われたG7広島サミットでは、各国の首脳を招き、日本から世界へ平和の実現に向けて訴えました。かつて戦争を行っていた国の一人として、僕たちも関心を持ち、戦争を無くすための方策を考えていかななくてはならないのです。

ある特攻隊員は言いました。「俺は自分の家族や友達、そして日本の未来を守るために飛び立つんだ」と。命を懸けて守り抜いてくれたから今の僕たちは生きて

いるのです。その恩を決して忘れてはならないのです。僕らで奪われてしまった命を無駄にしないように、日々生きていることに感謝しながら生活していきませんか。

